保護者の意見は、多かった順に、①家庭ではルールを決めて使用させます(8名)。②中学生に はまだ必要ないと思います(6名)。③情報モラルの授業も必要だと思いました(4名)。④子供 の利用内容を確認するようにしています(3名)。⑤インターネットの危険性が分かりました(2 名)。発信や投稿はしないように伝えます(2名)。親子で話合いをすることが大切だと思います (2名) 等の意見があり、保護者の関心が高いことが分かりました。

イ 検証授業Ⅱ

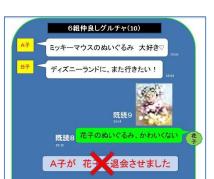
本時の目標

・自他の情報の取り扱いに関して正しい知識を持ち、トラブルに遭遇したとき主体的に解決を図 ろうとする。

学習活動 教師の働き掛け 1 前時の復習をす ・結果を電子黒板に表示し、クラス 現在、よく利用されているSNS る。 の現状を再提示した。SNSの中 10 Time では、LINE の使用が多いことを知 ユーチューフ (動画閲覧) フェイスフックック (実名登録が基本) ライン (スタンプ機能) らせた。 2 本時のめあてを知 スノー (写真加工) る。

SNSの利用法について考え、トラブルにあったときの対処法を考えよう。

- 3 SNSのグループ トーク機能につい て知る。
- ・LINE のグループ機能について紹介し、使ったことがない生徒にも、既読 機能等を説明し、今後使用する可能性があることに気付かせた。



- ・10名が、6組仲良しグルチャに参加 していることを伝えた。
- ・既読や退会等の補足を行い、利用し ていない生徒にも、どのような機能 があるのかを伝え、全員の理解を図 るようにした。

4 次郎は、何と書き 込むかを予想する。

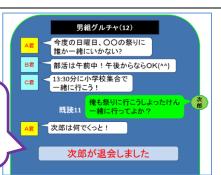


「自転車で行く」、「自転車で行 こうかな」、「部活だから行けな い」等の意見が出た。

5 次郎が退会した理由を考える。

短文は誤解を招く可能性が大きいことに 気付かせる。

- 6 当事者の立場と傍 観者の立場の両方か ら、個人で考える。
- 7 役割演技をして、 当事者の立場と傍観 者の立場の両方から 考え、ペアで話し合 う。
 - ペア学習後の考え を、ワークシート に記述する。



- 「A君の立場」と「B君やC君 の立場」の両方から考えさせ、 ワークシートに最初の考えを記 述させた。
- ・具体的に今後どのような行動を取 るべきなのかを考えることができ るように、「A君の立場(当事者)」 と「B君やC君の立場(傍観者)」で 役割演技をする時間を設定した。
- ・今後取るべき行動を深く考えることができるように、3分程度で当事者と傍観者の役割を交代することを伝えた。

- ・実際は、次郎がグループから退 会をしたことを伝えた。
- ・A君の書き込みは、歩きか自転 車か等の方法を尋ねた書き込み であり、A君と次郎君の間には、 異なる考え方があるかもしれな いことに気付かせた。





「次の日、学校で」、の 一文を付け加え、より 明確な場面設定にして おくと、生徒はより話 しやすかったと考えら れる。

最初の考えと、役割演技 後の考えを記述させ、思 考の変容を見取った。 3.自分が、<u>B君やC君のような立場なら、</u> どのような行動を取りますか。

次郎の個人のライニに、お祭り行ニウ、と誘う。

B君やC君のような立場なら、 どのような行動を取るべきでしょうか。

しょうたいする。

4 ペア学習後の考え

自分が、<u>A君の立場なら、</u> どのような行動を取りますか。

次郎の個人のライニト、「ごめん・書き方間違った」といって書き直す。

A君の立場なら、

どのような行動を取るべきでしょうか。

ライニしたりまた。 おかしくなりそうだから、 電話 する。

8 本時の学習を振り返る。

・SNSが人々に受け入れられている理由を考える。

・文字だけでは真意が伝わりにくいことや、短文は誤解を招くことに気付 かせ、理解を深めさせた。

メラビアンの法則

言葉より,視角や聴覚からの情報に影響される

言葉
(7%) (38%) (55%) (55%)

言語・・・・・・ 7% 声のトーン(聴覚)・・38%

身体言語(視覚) *** 55%

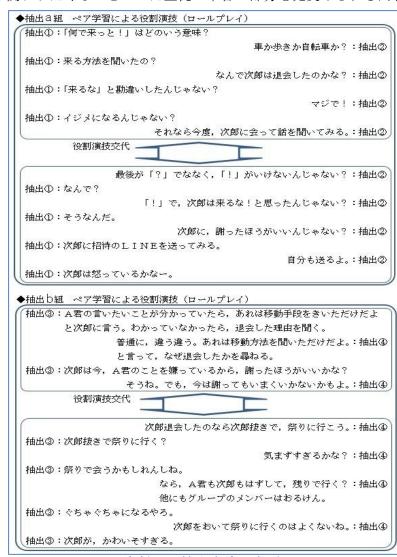
言葉のみの伝達は7%程度 であり、言葉よりもトーン や身体言語(視覚)の情報 に、より影響を受けやすい ことを伝えた。 SNSを利用していない生徒も3割程度在籍していました。そのため、まずSNSのグループトーク機能を、電子黒板を使って再現するようにし、SNSの概略を伝えるようにしました。SNSを利用していない生徒に、SNSのグループトーク機能の使い方を理解させ、使い始めたときに、起こるかもしれない問題について考えさせることができました。話し合う活動では、A君の書き込みは、歩きか自転車か、現地までの移動方法を尋ねた書き込みであり、A君と次郎君の間には、異なる考え方があることに気付かせることができました。また、ペア学習を利用した役割演技では、いろいろな傍観者の立場について考えさせることができました。

抽出生徒の会話は、**資料3**のような会話の内容となりました。抽出 a 組の会話内容は、1回目と2回目で、言葉は多少変わっているものの、同じような会話の内容となっています。抽出 b 組の会話からは、厄介な出来事には関わりたくないといった生徒の本音の部分も見受けられる内容

となりました。

生徒のワークシートの記述からは、半数以上のペアで、抽出 a 組と同じような現象が見受けられました。抽出 a 組の会話内容のように、役割演技を交代しても、会話の内容は同じような、会話の内容は同じような、仲直りをさせようとする仲裁者の立場や、あおったりする聴衆の立場からの、異なった会話内容は、あまり見受けられませんでした。

反省点として、情報端末を利用したネット上でのやり取りなのか、次の日の学校でのやり取りなのか、場面設定の内容で迷うペアが複数見受けられました。2回目の話し合う活動では、傍観者同士の話し合う活動に限定するなど、ワークシートの工夫が必要であったと考えます。



資料3 抽出生徒の会話

(5) 授業実践における手立ての有効性についての考察

身近なSNSの問題を取り上げて、インターネットの特性には「公開性」と「記録性」があることや、SNSでのやり取りにおいて、短文は誤解を招く危険性があることを学ばせることで、情報モラルに関する知識を深めることができました。また、ペア学習による役割演技と保護者からの意見を聞くことで、傍観者の中にも仲裁者に近い考え方や観衆に近い考え方等、違う立場からの意見に出会わせ、情報モラルの問題について多角的に考察することができました。生徒の感想からは「それでも便利だから利用する」や「危険は感じるが、多くの人とつながるから利用す